

政策ニーズに対応した野菜・花き品種の開発

【研究計画概要】

研究期間：令和7年度～令和9年度
 研究部門：農研機構・野菜花き研究部門、東北農業研究センター、九州沖縄農業研究センター
 共同研究機関・協力機関：岩手県農業研究センター、秋田県農業試験場
 山形県置賜総合支庁産業経済部、長野県野菜花き試験場
 奈良県農業研究開発センター、高知県農業技術センター
 宮崎県総合農業試験場、横浜植木株式会社、タキイ種苗株式会社
 inaho株式会社、イノチオ精興園株式会社

1. 研究背景・目的

我が国の野菜・花き生産では、地球温暖化の影響を受け、高温による生理障害や病害虫による被害の増加が懸念されている。そのため、耐暑性、耐病性に優れた野菜・花きの新品種開発が望まれている。一方、農業生産者人口の減少により、野菜・花きの安定生産の継続も懸念されている。そのため、果菜類などでは機械収穫が可能な品種や栽培面積当たりの収穫量の多い品種開発が求められている。

優先順位 ↑	トマト	ナス	イチゴ	ネギ	ダイコン	キク	ダリア
1	高温耐暑性かつ多収	青枯病抵抗性	高温による開花遅延の回避	高温下での収量安定性	高温による赤芯症の回避(生理障害)	白さび病抵抗性	高温による開花遅延の回避
2	高温黄化葉巻病	光合成能力向上による多収性	機械収穫適応性	高温による抽苔回避	高温で発生する黒心白根病抵抗性(細菌病)	高温下の開花遅延回避	高温下での安定した着花性
3	機械適応耐暑性大玉品種	高温による着果不良回避	病害抵抗性	平温時の収量性up	萎黄病抵抗性	長日による開花遅延回避	高温による枯死の回避
4	Ty-3aを利用した黄化葉巻病抵抗性(高温で打撃)	単為結果	各地域への適性付与	収穫物の外観	高温による抽苔回避	花の外観	高温による落弁の回避
5	機械適応房どりミニ・ミディ品種	とげなし				開花時期の改良	良日持ち性
6	周年栽培(高温期以外)					花の大型化	花型・花色露心性の回避

*赤字が今回の研究対象

■ 農研機構でなければできないこと
 □ 民間で出来ること(イチゴは公設試含む)
 (先行した農研機構から移行・移転を含む)

本研究では、野菜・花きにおいて高温条件下でも生産量が優れる品種や生産者が減少する中でも生産量を維持できる品種を開発することにより、温暖化や我が国の農業生産者減少などにも対応可能な野菜・花き類の国内安定供給の実現を目的とする。

2. 研究内容

- 1) トマトでは、①高温条件でも裂果しにくく多収性も備えた有望系統、②黄化葉巻病抵抗性の有望系統の開発、③機械化収穫に適した有望系統の開発。
- 2) 光合成能力向上により収量の優れたナス有望系統の開発。
- 3) 高温条件下での安定生産が可能なイチゴ有望系統の開発。
- 4) 高温条件下で品質・収量の優れたネギ有望系統の開発。
- 5) 高温による内部褐変症に耐性を持つダイコン有望系統の開発。
- 6) 花きでは、①白さび病抵抗性を有するキク有望系統の開発、②耐暑性に優れたダリア有望系統の開発。



3. 達成目標

- 1) トマトでは、①高温下でも裂果しにくく多収性も備えた有望系統1つ、②黄化葉巻病抵抗性の有望系統1つ、③機械化収穫に適したジョイントレス、果房規則性を持つ有望系統をそれぞれ1つ開発。
- 2) ナスでは、光合成能力が高く高収量で青枯病抵抗性の有望系統1つを開発。
- 3) イチゴでは、高温下でも開花・結実し、夏秋生産やクリスマス需要に対応できる促成栽培向けの有望系統をそれぞれ1つ開発。
- 4) ネギでは、高温下でも生理障害や腐敗症状が発生しにくく収量の優れた有望系統1つを開発。
- 5) ダイコンでは、高温による内部褐変症に耐性を持つ有望系統1つを開発。
- 6) 花きでは、①白さび病抵抗性を有するキク、②耐暑性に優れたダリアの有望系統をそれぞれ1つ開発。